共書き

共書きとは

共書きとは、「板書と同時に書き写すこと」です。したがって、学習課題に限ったことでありません。もともとは、板書内容すべてを対象としています。それを、野田中学校では、学習課題に限定して実践しています。

教師が板書内容を読み上げます。子どもはそれを聞きます。その後、教師は板書し、同時に子どもは聴写します。これが、共書きです。これは、小学１年生でも実行できることです。

共書きをしないと、教師が板書しているとき、「先生の字って下手だなあ」などと思う暇な時間を与えることになります。暇な時間を与えられた子どもは、その時間は思考の継続を中断するかもしれません。書く行為は、思考していることと見なすことができます。これは、集中力の途切れを教師が助長しているようなものです。教師の不作為中断作用と言えます。そんな暇を与えない同時進行の板書が共書きなのです。

共書きを取り入れる前の野田中学校では、このようなことがありました。授業者が、学習課題を板書します。早い生徒は、さっさと書き終わります。遅い生徒は、なかなか終わりません。書き終わった生徒が、何もしないで待っている時間が長かったのです。これでは、せっかく学習課題を把握して、「よし、やるぞ」と思っていたのに、待たされて意欲が減退してしまいます。書くのが遅い生徒は、２学期になっても、３学期になっても遅いままでした。これでは、授業に必要な適度な緊張感も生まれません。

共書きは思考活動です

共書きは、聴写です。聴写なら「先生、見えません」となることはありません。聴写は、漢字かひらがなか、カタカナかローマ字かなどの自己判断も求められる思考活動です。共書きだけでも継続的に実践するなら、かなり集中力も鍛えられ、ひいては学力向上にもつながります。

聴写では、学習で苦しんでいる生徒のことを考えると、次のように、慣れるまでは区切ってあげるのがいいでしょう。

首都であり、／多くの人が／集まる／東京には、／どのような／役割が／あるのだろうか。

５月の２週目が終わります。授業開き、黄金の３時間から各教科の授業がスタートして、約１か月が経過しました。手ごたえは、いかがでしょうか。各教科の授業で、取り残されている生徒は、いないでしょうか。学習課題把握の段階で、取り残されているとしたら、それは由々しき問題です。その授業は、きっと辛く長い時間になるでしょう。

共書きは、やるかやらないかです。学習課題が提示され、それを書かせる授業では、必ずやるようにしたいものです。どの先生も、同じように実践することで、その効果は、じわじわと表れてくるはずです。